

第六節 明治三十九年

明治三十九年東京美術學校年報

甲 款

概況

明治三十九年四月二日午前十時ヨリ第十五回卒業証書授與式ヲ行ヒ「卒業式期日改正については〇頁「東京美術學校近事」に記されている。」卒業製作及生徒成績品ヲ陳列シテ來賓ノ觀覽ニ供シ月四日五日ノ兩日本校関係者並ニ有志者ノ觀覽ヲ許ス
全月三十日凱旋觀兵式ニ付臨時休業シ職員生徒一同青山御所前ニ集合拜觀ス

五月一日靖國神社臨時大祭ニ付休業ス

全月廿二日米國聖路易萬國博覽會本校出品ニ對スル大賞牌賞狀本省ヨリ回送セラレ受領ス

五月舊帝國圖書館ノ煉瓦造倉庫一棟木造二階建一棟ヲ本校ニ借り入ル、ノ約成ナリ七月ニ至リ本校文庫ヲ此ニ移ス

七月廿五日ヨリ八月十四日マデ本校ニ於テ本省圖書夏期講習會ヲ開カル

十月四日例ノ如ク本校設置紀念式ヲ舉行ス明治四十年三月廿九日午前十時ヨリ毎年「前回」の誤り。四月ノ初メニ行ヒシヲ繰リ上ゲテ第十六回卒業証書授與式ヲ行ヒ卒業製作及生徒成績品ヲ陳列シテ來賓ノ觀覽ニ供シ全月廿日及四月一日ノ兩日本校關係者並

ニ有志者ノ觀覽ヲ許ス

規程

明治四十年二月廿三日本校假規則中改正シ生徒ノ保証人ニ關スル條項規定ノ全部ヲ削除ス

設備

圖書師範科ヲ明治四十年度ヨリ設ケラル、コトハ既ニ内定セル所ナレトモ全科教室ヲ圖書標本器械ヲ購入シ以テ整備ヲ計ルコトハ未ダ其運ビニ至ラズ 故ニ之ガ設備ヲナスハ目下ノ急務ナリトス

職員

助教授書記ハ定員ニ滿タズ 目下ノ費額ニテハ之ヲ充タスニ足ラザレバナリ 今其人員ヲ前年度ニ比スレバ教授書記ニ於テ各二人ヲ増シ囑託教員ニ一人ヲ減シ教務雇ニ三人ヲ増シ事務員ニ三人ヲ減セリ

外國留學生ハ前年度末ニ比スレバ助教授ニ一人ヲ減セリ

休職員ハ前年度ト同シク一人アリ

生徒

全体生徒ノ操行學力健康ニ於テハ前年度ニ比シテ著シキ差違ヲ見ズ 而シテ本年度新入學者ハ本科七十三人撰科十七人計九十人アリテ其學力ノ程度ハ本科生ニ在リテハ公立中學校卒業者三十七人私立中學校卒業者十三人師範學校卒業者三人工業藝校卒業者八人各種工藝學校卒業者十二人撰科生ニアリテハ各學校卒業校私塾等ニ於テ實技ヲ修メタルモノ少ナカラザルモ今其學力ノ程度ヲ舉グレバ高等小學卒業者七人同三學年修了者一人中學校四學年修了者一人同二學年修了者一人工業學校卒業者二人工藝學校一學年修了

者一人清國人三人英領印度人一人ニシテ其年齡ハ本科生最高二十六年九ヶ月最低十八年七ヶ月平均二十一年六ヶ月撰科生ハ最高二十四年十一月最低十七年十一月平均二十年三ヶ月研究科生ハ最高二十八年最低二十三年三ヶ月平均二十五年三ヶ月(何レモ外國人ヲ除ク)ナリ

生徒ノ入退學等ハ本年度ニ於テハ入學者ハ本科七十二人撰科十七人研究科ハ二十五人再入學者ハ三人轉科ハ七人退學者ハ病氣八人家事係累三十九人死亡者ハ一人除名ハ六人ニシテ之ヲ前年度ニ比スレバ入學者ハ本科ニ五人ヲ増シ撰科ニ五人講習科ニ二人を減ジ研究科ニ十三人ヲ増シ再入學者ニ二人ヲ減シ轉科ハ二人ヲ増シ退學者ハ家事係累ニ五人ヲ増シ死亡ハ三人ヲ減シ除名ハ三人ヲ増シタリ

生徒ノ員數ハ本年度末ニ於テ之ヲ前年度末ニ比スルニ日本畫科ハ九人西洋畫科ハ三人彫刻科ハ二人圖案科ハ五人鑄造科ハ一人漆工科ハ一人撰科ハ二十七人講習科ハ四人ヲ減シ研究科ハ十人ヲ増シ差引四十二人ノ減員ヲ見ル

本年度ノ卒業生ハ本科生六十八人撰科生三十六人講習科生二人計百六人ニシテ之ヲ前年度ニ比スレバ六十六人ヲ増シタリ 此増加ヲ見タルハ本年度内ニ在リテハ明治三十九年四月ト同四十年三月末ノ二回卒業生ヲ出シタルニ依レリ

生徒中學術品行殊ニ優等ナルモノヲ撰ビ明治三十九年九月ヨリ一學年間授業科ヲ免除シ特待生ヲ命シタルモノ十五人アリテ前年度ニ比スレバ一人ヲ減ゼリ

生徒中學業ニ精勵シタルモノヲ撰ビ之ヲ表彰センガタメニ精勤賞

狀ヲ授與シタルモノ計廿二人アリテ前年度ニ比スレバ十二人ヲ減セリ

實業學校教員養成規程ニ依リテ學資ヲ補給シタルモノハ前年度ノ如ク五人ナリ

明治四十年ニ於テ卒業スベキ生徒ヲシテ實地修學ノタメ明治三十年九月十四日ヨリ十月四日マデノ廿一日間ヲ以テ教授一人助教授一人囑託教員一人ヲシテ之ヲ引率セシメ京都府及奈良滋賀ノ二縣へ出張研究セシメタルコト前年ニ同ジ

本校生徒ハ皆通學ナルヲ以テ寄宿舎ニ關スル事項ハ申報スヘキモノナシ

將來施設上重要ト認ムル件

甲 留學生増派ノ件

從來本校教官又ハ卒業生中ヨリ歸來本校ノ教務ヲ執ラシムル目的ヲ以テ毎年一二名宛文部省留學生ヲ命セラル、コトアレトモ一般ニ西洋ノ美術ヲ採リ以テ本邦美術ノ改善進歩ヲ圖ランガ爲ニハ之ヲ以テ足レリトスヘカラス 教員養成ノ目的ヲ以テ差遣セラル、モノ、外汎ク藝術社會ヨリ毎年競技ノ方法ヲ以テ優秀ノ壯年三四名ヲ拔擢シテ外國留學ヲ命シ西洋美術ノ趨勢ヲ觀察セシムルト共ニ其意匠手法ヲ練修セシメ本邦藝術ノ上進ヲ圖ルハ目下ノ急務ナリト信ス

乙 外國教師雇聘ノ件

外國教師ヲ雇聘シ西洋畫及彫刻ノ意匠手法ヲ教授セシムルハ當ニ本校生徒教養上必要ナルノミナラズ延テ世間ニ於ケル西洋畫彫刻發達ノ上ニ其利益ヲ及ホスコト尠カラサルモノアルベシ

丙 建築科特置ノ件

建築科ハ明治廿二年本校創設ノ際ハ規則中ニ之ヲ置クノ條項アリシモ經費ノ足ラサルガタメ当分ノヲ欠クコトニセシガ其後遂ニ削除セラレタル儘今ニ至ルモ實施スルコト能ハス僅ニ圖案科中ニ建築裝飾ニ関スル學科實技ヲ加ヘ授クト雖モ生徒卒業後就業ノ實際ヲ見ルニ工藝圖案ヲ專業トスルモノト建築裝飾ニ從事スルモノト各其途ヲ異ニスルノミナラズ社會ノ狀況ヲ見ルニ建築裝飾家ノ需要比年漸ク多キヲ加フルノ傾向アルヲ以テ圖案科ヨリ分科シテ建築科ヲ特置シ圖案科ヲシテ專ラ工藝圖案ヲノミ學習スル所トセバ兩者各其特技ヲ專ニシ其成績一層著大ナラント信ズ

丁 製版科新設ノ件

本邦ノ製版術ハ其發達遲々トシテ未タ西洋製版術ト頡頏スルニ至ラス 美術作品ノ如キ複製ノ際ニ於テ体裁ヲ損シ趣味ヲ没シ遺憾少カラズ 而シテ本邦未ダ製版技術家養成ノ施設ナキヲ以テ此ノ儘ニ放任スルトキハ終ニ改善ノ途ナキヲ以テ製版科ヲ本校ニ新設シテ此欠陥ヲ補ハントス 製版術ハ繪畫圖案ヲ以テ基礎ノ學習トナスモノニシテ本校ハ此等ノ技術ヲ教授スルニ尤便宜ヲ有スルヲ以テ其施設ハ甚容易ナルベシ

戊 陳列館新設ノ件

如何ナル種類ノ學校モ參考標本ヲ必要トセザルモノナシト雖モ美術及美術工藝學校ニ於テハ參考標本ハ殆其生命トモ謂フヘキモノナルガ故ニ歐米諸國ニ於テハ博物館内ニ美術學校ヲ附設スルカ或ハ美術學校内ニ博物館ヲ附設スルカヲ常トセリ 兩者ノ關係實ニ離ルベカラザルモノアリ且美術學校ノ如キ種類ノ學校ニ在リテハ

畜ニ在校ノ生徒ヲ教養スルノミヲ以テ満足スヘキニアラス或ハ其蒐集シタル參考品ヲ博ク示スコトニ依リテ或ハ其研究シタル所ヲ講議又ハ出版ヲ以テ公ニスルコトニ依リテ一般ノ美術社會工藝社會ヲ裨益スルコトヲ努メサルベカラズ 然ルニ本校ノ如キ教場スラ狹隘ヲ告クルガ如キ状態ナルガ故ニ僅少ナル參考標本モ之ヲ排列收藏スル處ナク之ヲ教場ノ一隅ニ雜陳スルガ爲ニ塵埃ニ委シ易ク又屢移動スルノ已ムヲ得ザルガ爲ニ破損シ易シ 在校生徒ニ示スダニ尚不便ヲ感スルガ故ニ博ク示シテ以テ美術社會ヲ益スルコト能ハズ 故ニ今日ノ儘ニテハ美術學校ノ効用ノ一半ヲ欠クモノト云フベシ 本校々舎ハ四十年^(年度)ヨリ改築ノコト、ナリ四ヶ年ノ後ニハ完成ヲ告クベシ 陳列館モ亦之ト同時ニ建築セラレ、コト、ナラバ學校ノ設備完全シテ既ニ蒐集シタル標本ヲモ陳列シ尚漸ヲ追テ博蒐ニ努ムルトキハ之ヲ時代ノ順序ニ依テ排列スルコトヲ得テ一見美術工藝ノ變遷ノ由ル所ヲ知ラシムルニ足ルベシ 此ノ如クナルトキハ教授上ノ便宜ハ更ナリ貴重ナル標本ノ保存法モ亦完キヲ得ヘク之ニ依テ美術社會ヲ益スルコト尠少ナラザルベシ 陳列館ハ畜ニ參考標本ヲ陳列スル所トシテ必要ナルノミナラス生徒成績品展覽會場トシテ又生徒成績品陳列場トシテ缺クベカラザル所ナリ 四十年^(年度)ヨリ毎年生徒成績品展覽會ヲ開設スルコト、ナリタルニ若シ陳列館ノ設ナキトキハ教室ヲ以テ展覽會場ニ充テザルベカラズ カ、ル場合ニハ展覽會期ハ勿論其準備跡片付ニ要スル日子少カラズシテ其間教授ヲ休止セザルベカラザルノ不便アリ 且本校生徒卒業ノ際本校ヨリ材料ヲ資給シテ製作セシムル卒業製作ハ之ヲ保存スルノ規定ナルガ故ニ卒業生ノ年ヲ逐テ増加ス

ルニ依リ倉庫狹隘ヲ告ゲ之ヲ堆積スルノ已ムヲ得サルニ至レリ
 若シ之ヲ陳列館内ニ排列シテ在校生徒ニ示スノミナラズ博ク内
 外ノ来觀者ニ示スコトヲ得ハ物品保存ノ途立ツノミナラズ學校技
 術ノ功程ヲ公示スルニ足ルモノアルベシ 由是觀之美術學校本然
 ノ効用ヲ完全ニ収メンカ爲ニハ陳列館新築ノ必要ナルコト明ナリ
 雜件

生徒實驗ノ資ニ供スルタメ諸所ノ依囑ヲ受ケ製作ニ従事シタルモ
 ノ、中重モナルモノヲ舉クレバ左ノ如シ
 依囑製作品一覽

品名	數量	受託		依囑者
		年度	竣工ノ區別	
乾漆製婦人胸像	一	本年度	竣工	暹羅公使
實吉軍醫繪監銅像	一	同	同	海軍々医會 高橋三郎
優勝旗	一	同	同	吳鎮守府 狹間光太
石膏製屋上裝飾神像	一	同	同	五二共進會 中澤彦吉
木彫聖觀音原型	一	同	同	佐久間榮太郎
岡田良一郎銅像	一	同	同	岡田良平
長岡護全騎馬銅像	一	同	同	山崎覺次郎
繪畫額面	二	同	同	米田虎雄
古川久吉銅像	一	同	同	佐藤友熊
西村勝三銅像	一	同	同	田代平五郎
松島清八銅像	一	同	同	大澤省三
厨子入純金製佛像	一	同	同	本田留吉
	同	同	同	鈴木九一郎

卓上電燈用 青銅製婦人像	四	軀同	未竣工	英国サミユル夫人
龍銀製花瓶	三	對同	同	曾我日本鐵道會社長
飾銀製花棚	一	基同	同	徳川華族會館長
銀製花瓶	三十	對同	同	高橋日本勸業銀行 總裁
府縣聯合共進會賞牌	五千式百	同	同	農商務省
東京全市模型	七十九箇	同	同	尾崎東京市長
東京勸業博覽會場內 噴水彫刻	一	式同	同	千家東京府知事
日本橋雛形裝飾彫刻人物	二	軀同	同	尾崎東京市長
東京勸業博覽會場內 工藝館ニツチ彫刻人物	一	式本年度	未竣工	千家東京府知事
松田源五郎銅像	一	軀同	同	野村宗十郎

『東京美術學校校友會月報』記事抜粹

東京美術學校近事〔四一四〕卷号 M・三九年・一・一九日

○前號掲載後に於ける職員の動靜を録すれば左の如し。

明治三十八年十一月廿五日、辻村〔延太郎〕教授正八位に敘せらる。

同月二十九日、辻村教授休職を命ぜられたり。

同月三十日、助教授中尉羽田禎之進氏、勲七等に敘し、瑞寶章を授けらる。

十二月五日、増井〔兼吉〕雇は一等計手に昇進せられたり。

同月六日、雇佐々木丸治氏依願解雇せられたり。

同月八日、竹内〔久一〕教授は戰捷紀念聖觀音銅像原型製作擔任を